第２学年　英語科学習指導案

日　時　平成 14 年 5 月 27 日　月曜日　３校時
学　級　２年〇組（男子 18 名 女子 13 名 合計 31 名）
指導者　北上市立上野中学校　教諭　高 橋　明 浩

1　単元名　　Unit 1　Hiking with Ms. Green

2　目標

⑴　コミュニケーションへの関心・意欲・態度

・　新出文型や教科書本文の内容を聞いたり読んだりして、前向きに理解しようとする。
・　対話活動において、制限時間内により多くの対話活動をしようとする。
・　自分の言いたいことや書きたいことを、新出文型を使ってまちがってもいいから表現しようとする。
・　表現する場面において、いろいろな表現方法を考えて使ってみようとする。

⑵　表現の能力

・　Be 動詞の過去形・過去進行形・「look＋形容詞」を用いて、自分の言いたいことを口頭や文字で表現することができる。
・　簡単なお知らせや感想を、英語で書くことができる。
・　相手に尋ね返したり、相づちを打ったりすることができる。
・　文章の流れを考えて、日記を書くことができる。

⑶　理解の能力

・　イベントに誘うお知らせやイベント参加の感想を読んで内容を理解することができる。
・　案内や指示を、場所や日時など大切な情報に注意しながら聞き取ることができる。

⑷　言語や文化についての知識・理解

・　Be 動詞の過去形、過去進行形、「look＋形容詞」それぞれの形・意味・用法を理解することができる。

3　指導観

⑴　教材観

新出文型として、Be 動詞の過去形・過去進行形・「look＋形容詞」の３つを学ぶ。Be 動詞の現在形（am/is/are）と現在進行形（be 動詞＋動詞の ing 形）、第２文型（主語＋be 動詞＋形容詞）については、１学年で学んでいる。いずれも、既習事項である be 動詞がキーポイントとなるため、上手に関連づけて指導できれば理解はそれほど難しくはないと思われる。

言語機能としては、（be 動詞の過去形を用いて値段を）発話・質問・応答する、（ミーティングを忘れていたことを）非難する、（お知らせによってイベントを）案内する、（イベン

トの）感想を述べる、（バードウォッチングのイベントについて）案内・指示する、（留守電やメールによって待ち合わせ場所を）説明・質問する方法を学ぶ。

生徒が１学年で学んだ教科書とは大きく異なり、新しい教科書ではページごとに話題がめまぐるしく変化する点で、指導者も生徒もかなりの努力を要するが、逆に集中的に英語のエッセンスを身につけることができるのではないかとも思われる。

⑵　生徒観

２年〇組は授業中に落ち着いた、安心して学習できる雰囲気があり、指導者の問いかけに対する反応も活発である。基礎的な英語力、例えば英語を読んで理解する力、英語を書いて表現する力は決して高いとはいえないが、ひたむきに英語を身につけようという表情が読みとれる生徒が多い。一部に理解していることをひけらかしたがる生徒がおり、他の生徒が考える前に正答を答えがちなので、発問してから指名するなどの工夫も必要である。

⑶　指導観

４月から新しい教科書に移行し、未習単語が数多く出てきたり、言語機能に重点がおかれる部分が加わったなど教科書の構成そのものが大幅に変更されていることから、手探り状態で授業を進めている。これに加え、絶対的観点別評価を意識した評価活動を始めているということ、基礎・基本が未定着の生徒が多いということから、どうしても進度が遅れがちである。

基礎的・基本的な内容を定着するためには、指導者が学習者のレディネスを把握することが大切である。そのため、１学年で使用した教科書を授業に持参し、「こんな場面でこの文型を使ったね」と思い出させる工夫をしている。例えば、was/were を導入する前には必ず am/is/are の使い分けを、過去進行形を導入する際には現在進行形を、第２文型を導入する際には am/is/are を用いた叙述用法の復習を行う。

「発話する」、「案内する」などの言語機能の導入においては、コミュニケーション能力の育成に直接関わる事項なので、できる限り実際の会話場面を想定させたい。

教科書が始まったばかりではあるが、T/F チェック、Q&A、音読練習、聞き取り、対話活動など多様な手法を取り入れ、飽きさせない工夫をしながら指導していきたい。

４　指導計画（総時数　13 時間　本時　10／13）

時数>	学　習　内　容	観　点　別　評　価　規　準			
		関心･意欲･態度	表現の能力	理解の能力	知識･理解
3	Starting Out ・動詞の復習～be 動詞の過去形		Be 動詞の過去形を用いて過去の様子を表現できる		Be 動詞の過去形の意味・用法が理解できる
3	Dialog ・過去進行形 ・過去進行形を用いた対話活動	過去進行形を使って表現しようとする 時間内により多くの対話活動をしようとする	過去進行形を用いて、簡単な対話ができる		過去進行形の意味・用法を理解できる
3	Reading for	いろいろな表現	簡単なお知らせ	イベントに誘う	「Look＋形容

	Communication ・「Look＋形容詞」 ・内容理解と音読 ・簡単なお知らせと感想を書く活動	方法を使ってみようとする 音読練習を熱心に行い、正しく音読しようとする	と感想を、英語で書くことができる 本文をほぼ正確に音読することができる	お知らせや感想を読んで、内容を理解することができる	詞」の意味・用法を理解できる
1	Listening Plus ・案内や指示を聞き取る活動	音声に集中して大切な情報を聞き取ろうとする		大切な情報に注意しながら、内容を聞き取ることができる	
0.5	待ち合わせ ・Be 動詞の過去の復習		Be 動詞の過去形を用いて文を作ることができる		Be 動詞の過去形の意味・用法が理解できる
0.5	Let’s Chat 1 ・尋ね返し方やあいづちの打ち方	学んだものをすぐに使ってみようとする	適切な表現を用いて、たずね返したりあいづちをうったりできる		
2	日記 ・文章の流れのパターンの学習		文章の流れを考えて、日記を書くことができる	日記のモデルを読み、流れを理解することができる	

5　本時の指導

⑴　本時の目標

・　いろいろな表現方法を使ってみようとする。（コミュニケーションに対する関心・意欲・態度）

・　簡単な感想を英語で書くことができる。（表現の能力）

・　ハイキングに誘う感想を読んで、内容を理解することができる。（理解の能力）

・　「look＋形容詞」の意味・用法を理解できる。（言語についての知識・理解）

⑵　指導の構想

・【課題把握の場・学び方把握の場】　本時の目標は、教科書 P.8 の Your Turn B「感想を述べよう」において、「たずねる、ほめる、感想を述べる」などのコメントを表現するために、複数通りの英文で書いてみるところにある。そこで、授業の始めの部分において学習課題（Goal）を把握させ、この課題を達成するための手順（学び方）を簡単に説明するところから授業が始まる。

・【レディネス確認の場】　前時において新出文型「look＋形容詞」を導入している。自己カルテの集計では、「使い方がほぼ完璧に理解できた」とする生徒が 3 人、「だいたい分かった」が 21 人、「分からなかった」が 5 人いる。本文読みとりのために「look＋形容詞」は欠かせないレディネス項目なので、この復習を口頭練習で行う。新出単語も前時で導入済みであるが、単語は忘れやすいため、この復習も加える。

・【個別作業の場・理解チェックの場】　P.7 本文の内容理解については、教科書本文を見させたまま CD を聞き取らせ、6 人の書いた感想を一言でいうとどういうことなのかを個別に読みとり、ノートにメモさせる。そのあと、生徒に質問しながら素早く和訳を行う。このとき、P.8 での表現活動に役立つよう、実感が湧くような説明を加えたい。T/F チェ

ックで理解度をチェックし、続いてQ&Aによって英文を書く練習をさせる。

・【自己表現の場・情報交換の場】　P.8 に移り、いよいよ本時の目標達成に臨む。ここでは、単に日本語を英訳するのではなく、与えられた場面においてどれだけの表現方法を考えられるかが勝負となる。そこで、言い換えがなぜ必要なのかを感じさせ、日本語での言い換えの例を紹介してから自己表現活動をさせる。ここでは、下位の生徒が取り残されることのないよう、グループ活動をさせるとともに机間巡視をして支援する。時間が余れば何名かの生徒の作品を全体に紹介したい。

・【自己評価の場】　最後に、自己カルテの記入方法を説明し、自己評価を記入させて授業が終わりとなる。

(3)　本時の展開

段階	時間	学習活動	場の設定	基礎学力 意欲	基礎学力 学び方	基礎学力 知理技	教師の支援	評価項目
導入	3分	1 あいさつ						
		2 学習課題の設定	◆課題把握の場 ◆学び方把握の場		◎ ◎			・全員が課題と授業の流れを把握できたか
		(Goal)　かんたんな感想を書ける						
展開	40分	3 「look＋形容詞」の復習(5)	◆レディネス確認（復習）の場			○	・場面を与えて形容詞を考えさせ、それを使って口頭練習をさせる	・新出文型の意味と用法を理解しているか
		4 新出単語の復習(3)				○	・発音練習にトラップを設ける	・きちんと文字で発音しているか
		5 P.7 の 6 人の感想を一言でまとめる(7)	◆個別作業の場			◎	・机間巡視	・自力で取り組んでいるか
		6 P.7 の内容確認(10) ・和訳				○	・実感が湧くように気もちを述べる	・メモをとりながら聞いているか
		・T/F チェック	◆理解チェックの場	○		◎		
		・Q&A				○	・答え方のヒントを与える	
		7 感想を英語で表現する(15)	◆自己表現の場 ◆情報交換の場	◎	◎	◎	・日本語での表現のいろいろを実感させる	・自分で考え、または他から情報を得て取り組もうとしているか
終末	7分	8 自己カルテの記入（～コメント発表）	◆自己評価の場	○	◎		・観点を説明する A: 5 つ以上書けた B:各 1 つは書けた C:ほとんど書けなかった	
		9 あいさつ						